



语法基础知识 与教学研究

● 金 华 著



华南理工大学出版社
SOUTH CHINA UNIVERSITY OF TECHNOLOGY PRESS

广东省哲学社会科学“十二五”规划项目(编号: GD14XWW06)

华南理工大学中央高校基本科研业务费重点项目资助(编号: D20156070)



语法基础知识 与教学研究



华南理工大学出版社
SOUTH CHINA UNIVERSITY OF TECHNOLOGY PRESS

· 广州 ·

图书在版编目 (CIP) 数据

日语语法基础知识与教学研究 / 金华著. —广州: 华南理工大学出版社,
2017. 10

ISBN 978-7-5623-5466-6

I. ①日… II. ①金… III. ①日语-语法-教学研究 IV. ①H369.35

中国版本图书馆CIP数据核字(2017)第262772号

Riyu Yufa Jichu Zhishi Yu Jiaoxue Yanjiu

日语语法基础知识与教学研究

金华 著

出 版 人: 卢家明

出版发行: 华南理工大学出版社

(广州五山华南理工大学17号楼, 邮编510640)

<http://www.scutpress.com.cn> E-mail: scutc13@scut.edu.cn

营销部电话: 020-87113487 87111048(传真)

策划编辑: 吴翠微

责任编辑: 陈 蓉

印 刷 者: 虎彩印艺股份有限公司

开 本: 787mm × 960mm 1/16 印张: 16.75 字数: 326千

版 次: 2017年10月第1版 2017年10月第1次印刷

定 价: 45.00元

版权所有 盗版必究 印装差错 负责调换

まえがき

外国語としての日本語の習得で一番難しいと思われるのが日本語の文法でしょう。日本語の文法は教える側としても、教わる側としても難問の一つであります。日本語入門後すぐぶつかるのが「私は学生です」と「私が学生です」を区別することです。「は」は主語で「が」は主体を表す？と答えると初級学習者には理解できるのでしょうか。なかなか難しいでしょう。特に教える側が学生の納得がいくまで説明するのはなかなか難しいです。文法の使い方は決まり文句ではなく、その場その場での使い方を有しているため、文・表現を取り上げて説明する心懸けをしなければなりません。

日本語には次のような「そう何度も頼まれたら、仕方がないね。五千円貸してやるよ。でもね、給料が出たらすぐ返すように言っといてほしいの」などの表現が多くみられます。主語がない、だれが、だれに、何のことについて会話を行っているか、中国の日本語学習者には理解しがたい表現でしょう。ここで、文法の使い方をはっきり身に着けておけば、理解には支障が起きないに間違いありません。

また、「が」と「は」の使い方であれ、上述の会話文であれ、まず、それがどのような状況（誰が、だれに、何を、何のために）、文脈で使うのか、「教える側」がはっきり示してあげることが大事であります。

本書は、初級段階の学習者向けの文法説明にとどまらず、中上級学習者、または、日本語教師にも利用できるよう教授法などにも工夫を重ねました。

本書を通じて、日本語習得だけでなく、日本語の教え方、日本語の表現の面白さ、楽しさが理解できたら、うれしく思います。

また、本書は一部の固有名詞の説明の部分と一部の例文には中国語訳を付け加えました。というのは、中国の初級日本語学習者がよりよく理解できるよう心懸けをしました。

最後に、数多くの有意義な助言や資料提供を下さった恩師鏡味明克先生、友人の安田光男様、その他、本書の出版にかかわってくださった多くの教え子の皆様に心より感謝申し上げます。また、本書の査読にご協力、ご指摘頂いた先生方にも御礼申し上げます。

金 華

2017年8月

目 次

第一章 言葉の単位	1
一、ことばの単位の分類	1
二、ことばの単位	1
三、文節分け	3
第二章 日本語の文の構成	5
一、単語、文節	5
二、文の成分	5
三、并列助詞、助動詞	6
四、文の種類	6
第三章 文節の働き	7
一、主語と述語	7
二、修飾語	9
三、接続語・独立語	11
四、自立語と付属語	13
五、品詞の分類	15
第四章 単語の分類	24
一、自立語と付属語	24
二、品詞	24
三、体言	24
四、用言	25
五、品詞の分類（簡略図——中国語）	29
六、品詞の分類（詳細図）	30
第五章 体言	31
一、名詞	31

二、普通名詞	32
三、固有名詞	33
四、代名詞	33
五、数詞	34
第六章 用言	38
一、動詞	38
二、形容詞・形容動詞	51
三、副詞	57
四、連体詞	59
五、接統詞	61
六、感動詞	63
七、助動詞	64
第七章 助詞	137
一、助詞の性質と働き	137
二、格助詞	141
三、接統助詞	170
四、副助詞	198
五、終助詞	227
第八章 文節と文	242
一、文節のまとめ	242
二、切れる文節と続く文節	242
三、係る文節と受ける文節	243
四、文節同仕の関係	243
五、連文節	245
六、文の成分	245
七、文の成分の位置	247
八、文の種類	248
参考文献	249
附録	251

第一章 言葉の単位

一、ことばの単位の分類

ことばの単位には、大きい順に文章・段落・文・文節・単語の五つがある。

- 文章: 一つのまとまった内容をあらわしたことばの集まり。
- 段落: 文章を内容ごとに区切った各部分。
- 文: 句点(。)によって区切られたひとつづきのことば。
- 文節: 文を実際の言語としてできるだけ短く区切った部分。
- 単語: 特定の意味と働きをもつ最小のことばのまとまり。

❖ 文を文節に区切るには、「ネ」や「サ」を入れても不自然にならない箇所
で区切る。(「ヨ」を入れてもよい。)

二、ことばの単位

一口に「ことば」と言っても、大きささまざまなものがある。たとえば、「ネコ」という語一つでも「ことば」であり、また、1篇の小説も「ことば」であることに変わりはない。つまり、単に「ことば」と表現するだけでは、それがどのくらいの大きさであるのかまではわからない。そこで、ことばの大きさをあらわすために用いるのが「ことばの単位」。ことばの単位には、大きい順に、文章・段落・文・文節・単語の五つがある。それぞれの単位について順を詳しく説明すると次のとおりである。

1. 文章

文章とは、一つのまとまった内容をあらわしたことばの集まりの全体を言う。たとえば、一点の作文は、その作文全体が一つの文章になる。文章は、ことばの単位のなかで最も大きいものである。

2. 段落

文章が長くなると、その内容のうえから、いくつかのまとまった部分に区切られることが多くなる。文章を内容ごとに区切った各部分を段落と呼ぶ。

文章中の段落の区切りは、改行することによってあらわす。そのとき、段落の最初を1字空ける（字下げ）のが普通である。

3. 文

文章はふつう、その途中の適当な箇所に句点「。」が打たれている。その句点によって区切られたひとつづきのことを文と呼ぶ。

次の図1-1のように、一つの文章は、普通いくつかの文に区切ることができる。逆に言うと、文がいくつか集まることによって文章になる。

文章 わがはいは猫である。名前はまだ無い。

↓ 句点（。）で区切る

文 わがはいは猫である。 名前はまだ無い。

図1-1 文章と文

*

日常的に「文章」と「文」を同じような意味で使うことが多いが、国語の文法を学ぶときにはこの両者をはっきりと区別しなければいけない。もっとも、一つの文からなる文章というものもある。

**

文は、文法の基本となる単位である。なぜなら、「文法」というのは、いくつかの語が連なって「文」をつくるときの法則のことだから。

文には長短さまざななものがあり、とくに日本語の文には主語や述語がないことがよくある。ちなみに、「おはよう。」「火事。」「起きろ。」といったように、たった一語であっても文として成立することもある（一語文）。

4. 文節

文は、さらに小さな部分に分けることができる。

まず、文は文節に分けることができる。文節とは、「文を実際の言語として不自然にならない程度にできるだけ短くなるように区切ったときの一区切り」を言う。この定義だとわかりにくい。

言い換えれば、文節という単位は、音声の面からも区切ることができるという特徴がある。つまり、文を声に出して読むとき、文の途中に、自然に音を切ることができる切れ目がいくつかある。その切れ目がちょうど文節同士の切れ

目になるわけだ。

5. 単語

文節をさらに小さく分けたものが単語である。

単語は、特定の意味と働きをもつ最も小さなことばのまとまりである。つまり、単語は、最も小さなことばの単位を指す。

たとえば、「夏の海」ということばは、「夏」＋「の」＋「海」というように、三つの単語に分けることができる。

❖しかし、単語をそれ以上に分けると、ことばのまとまりはその意味や働きを失ってしまう。たとえば、「絵の具」ということばを「絵」や「具」に分けてしまうと、もとの「絵の具」の意味・機能を失ってしまう。「絵の具」ということばは、このまとまりで物の名前をあらわす一つの単語であり、つねにこのまとまりで文法上の機能を有している。

「絵の具」「竹の子」「菜の花」は、それぞれが一つの物の名前だから、単語としてはそれ以上に分けることができない。同じように、「思い出す」「受け取る」などのようなことばも一つの単語として考える。

❖このように、二つ以上の単語が合わさって一つになった語を複合語と呼ぶ。

文節は二つ以上の単語に分けられることが多いが、一つの単語からなる文節もある。

文節を単語に分ける作業は、文を文節に分ける作業にくらべて難しい作業である。正確に単語に分けるためには、品詞の見分け（識別）ができるようにならないといけない。

三、文節分け

文は、さらに細かく文節に分けることができる。この文節分けは、これから国語の文法を学ぼううえで避けて通ることのできない基本的な作業である。文節分けができなければ、文法の理解はおぼつかないものになってしまう。

＊

文を文節に分けるには、文節の切れ目を探すことになる。文節の切れ目は、音が切れる、休止する箇所である。

＊ ＊

音の切れ目を探すための簡単な方法は、文中の適当な箇所に「ネ」や「サ」

を入れて発音してみる。「ヨ」でもかまわない。「ネ」や「サ」を入れてみて不自然にならない箇所を発見したら、そこが音の切れ目、すなわち文節の切れ目である。

* * *

図1-2のように、「わがはいはネ」「猫でネ」「あるネ」と実際に発音してみて、「ネ」を入れることができるかどうか確認してみるとよい。

その際、「ネ」を入れられる箇所を見落とさないように注意しよう。文を文節に区切るときは、できるかぎり短く区切らなければいけない。

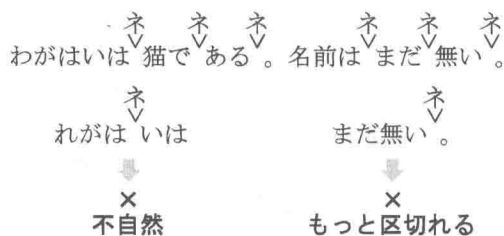


図1-2 文節の区切り方

第二章 日本語の文の構成

一、単語、文節

1. 単語(单词)

语言的最小单位。

○私 の 家 は すぐ 近く です。

2. 文節(句节)

在发音、意义上保持自然并且适当区分，是构成句子的直接单位。

○向こうに 見える 赤い 屋根は 教会の 屋根です。

二、文の成分

1. 主語(主语)

表示主语的句节。

○花が咲く。花开。

○彼は校長先生だ。他是校长。

2. 述語(谓语)

说明主语的句节。

○雨が降る。下雨。

○桜は美しい。櫻花很美。

3. 修飾語(修饰语)

修饰、说明其他句节，分为“连体修饰语”或“连用修饰语”两种。

○北の風が吹く。(連体修飾語)北风吹。

○バラが美しく咲いた。(連用修飾語)玫瑰美丽地绽放了。

4. 接続語(接续语)

连接句子与句子、句节与句节，并表达两者关系。

○明日は遠足だ。でも、雨なら中止だ。明天出游，但是，如果下雨就不去。

5. 独立語(独立语)

与其他句节无直接关系的句节，表示呼唤、感动、应答、提示等。

○はい、もうすぐ終わります。好的，马上就能结束了。

三、并列助詞、助動詞

1. 並立語(并列助词)

两个以上的单词互为对等关系并共同构成句子的成分。

○ハワイでは、空と海が美しい。夏威夷的天空和海很美。

2. 補助語(助动词)

后面的单词为前面的句节添加意义，前后句节为补助关系。

○今日は暑くない。今天不热。

四、文の種類

1. 単文(简单句):

主语、谓语的关系只有一个。

○私は会社員だ。我是公司职员。

2. 複文(复句):

主语、谓语的关系有两个以上，彼此非对等关系。

○雨が降ったので、道が悪い。因为下雨，路况很糟糕。

3. 重文(并列句):

主语、谓语的关系有两个以上，互为对等关系。

○波が高く、風も強い。浪高风强。

第三章 文節の働き

1. 文節の働き

文節には、主語・述語、修飾語・被修飾語、接続語、独立語といった働きがある。

2. 主語と述語

主語とは、「何が（だれが）」にあたる文節を言う。

述語とは、「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」にあたる文節を言う。

主語の文節と述語の文節との相互関係を主語・述語の関係と呼ぶ。

文は直接に文節という部品が組み合わさってできている。そして、一つ一つの文節は、他の文節と関係しながら、文中でさまざまな働きをする。

文節の主な働きを表3-1にしてまとめると、次のようになる。

表3-1 文節の働きの種類

文節の働き	例
主語・述語	鳥が 鳴く。
修飾語・被修飾語	ゆっくり 歩く。
接続語	安いのに、うまい。
独立語	さあ、やろう。

文節のさまざまな働きのなかから、主語と述語という働きを取り上げる。それ以外の文節の働きの種類については、ページを改めて説明する。

なお、文節の働きには、以上のほかにも、並立語や補助語・被補助語といった働きも見られる。

一、主語と述語

文は、基本的に、「何が（だれが）」にあたる部分と、「どうする」や「どのよう」「何だ」「ある（いる）」にあたる部分から成り立っている（図3-1参照）。

図3-1のように、文は普通、まず「何が」にあたる文節が先にきて、それに対応するかたちで、「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある(いる)」にあたる文節が続く。前者の文節が主語で、後者の文節が述語である。

主語 何が どうする 述語

花が 咲く。

主語 何が どのようだ 述語

花が きれいだ。

主語 何が 何だ 述語

これが 花だ。

主語 何が ある(いる) 述語

花が ある。

図3-1 文のしくみ

[コラム] 教え方のポイント

1. 主語

「何が(だれが)」にあたる文節を主語と呼ぶ。主語は、文の主題や動作の主体をあらわす。

主語となるのは、「～が」の形の文節だけではない。「～は」「～も」など、さまざまな形の文節が主語になる。なお、日本語の文では、主語が省略されることはめずらしくない。

例文:

○木星は、ガスでできた惑星です。土星も、そうです。

○いつか火星に行ってみたい。(主語の省略)

2. 述語

「どうする」「どんなだ」「何だ」にあたる文節を述語と呼ぶ。述語は、主語について説明する働きをする。「ある(ない)」「いる」にあたる文節も述語だ。

日本語の(文全体の)述語は、文の終わりにくることが普通だが、かならず

しもそうであるとはかぎらない。次の例文のように述語が主語などの前にくることもあり、このような表現方法は倒置文と呼ばれる。

例文：

○寒いですね、この 部屋は。(主語の前)

○この 部屋は 寒いです、とても。(修飾語の前)

3. 主語・述語の関係

主語の文節と述語の文節との間には、主語の文節が述語の文節にかかり、述語の文節が主語の文節を受けるという関係がある。このような文節同士の関係を主語・述語の関係と呼ぶ。主語・述語の関係は、文の骨格(骨)である。

具体的に文の中から主語と述語を見つけるには、次のような手順で行うとよい。

*

文を文節に分ける。

**

述語の文節は文末にくることが多いので、文末に着目して述語を見つけるようにする。

その述語に対応する主語の文節をさがし出す。

主語となる文節の候補がいくつかある場合には、文全体の意味を考えて適当なものを選ぶ。

例文：

○これが私が飼っている犬だ。

→①文節に分ける。

これが | 私が | 飼って | いる | 犬だ。

→②文末を見て、「犬だ」を「何だ」にあたる述語としてとらえる。

→③述語「犬だ」とつながりそうな主語の文節として、「これが」と「私が」の二つが考えられる。ここで「私が」を主語としてとらえると、「私が犬だ」という意味の文になってしまう。よって、「これが」が主語であると分かる。

二、修飾語

1. 修飾語と被修飾語

修飾語は、他の文節にかかってその意味を詳しく説明する文節である。被修

飾語は、修飾語によって説明される文節である。修飾語と被修飾語との相互関係を修飾・被修飾の関係と呼ぶ。文の骨組みとなる要素は、主語と述語だ。だが、文は、たいていの場合には、主語と述語以外の要素も加わることによって成り立っている。たとえば、次の図3-2のとおりである。

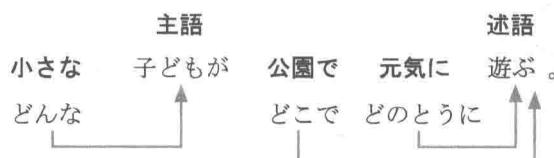


図3-2 修飾語

【コラム】教え方のポイント

図3-2の文は、主語や述語となる文節のほかにも、いくつかの文節が組み合わさってできている。

「小さな」はどんな子どもであるかを説明する文節であり、「公園で」「元気に」はどこで・どのように遊ぶのかを説明する文節である。

このように、ほかの文節にかかってその内容を詳しく説明する文節を修飾語と呼ぶ。また、図3-2では、主語の文節「子どもが」と述語の文節「遊ぶ」が「小さな」「公園で」「元気に」という文節(修飾語)によって説明されている。

このように、修飾語によって説明される文節を被修飾語と呼ぶ。

「子どもが」「遊ぶ」の文節は、それぞれ主語・述語であると同時に、被修飾語でもある。

「本を読む」の「本を」のように、「なにを」の形の文節も修飾語だ。

*

以上のように、修飾語と被修飾語との間には、前者が後者にかかり、後者が前者を受けるという関係がある。このような文節の関係を修飾・被修飾の関係と呼ぶ。

**

修飾語は、つねに被修飾語よりも前に置かれる。しかし、被修飾語の直前に置かれるとはかぎらない。(図3-2の「公園で」は、間に文節を一つ置いて「遊ぶ」にかかっている。)